

平成24年度防衛大学校開校祭 第36期ホーム・ビジット・デー（HVD）

秋深まる11月10、11日の両日、防衛大学校は、平成24年度開校記念祭を開催しました。

特に今回の開校記念祭は、学校自体が創立60周年を迎える記念の年でもあることから、「防衛大学校創立60周年記念・平成24年度」と冠し、人生に擬えれば還暦の節目に当たることから新たな1歩を期する意味も込めて、「躍進」がテーマとして掲げられました。

そのような中、卒業20周年目に当たる第36期生が防衛大学校に集い、今年もまたホーム・ビジット・デー（以下、HVDという）が行われました。

36期生は、その入校が昭和最後の年である昭和63年であったことに加え、防大キャンパスに女子学生のいない最後のクラスであり（女子学生第1期生は36期生が卒業した平成4年に入校）、また卒業時に学士を授与された最初のクラスである等、防大史上も節目に当たるクラスです。HVDが行われた当日（11日）には、全卒業生354名の内89名（家族を含め183名）が来校し、旧交を温め合いました。

当日は、自身が防大卒業生でもある森本・防衛大臣の来校前という、朝の慌ただしい時間を縫って、足達・36期期生会長始め36期生HVDスタッフが国分・学校長を表敬することができました。表敬時には月橋、井上両副校長及び田邊幹事の同席も得て、短い時間ながら貴重なひと時を過ごすことができました。



学校長表敬

その後行われた記念式典・観閲式においては、学校長の式辞、及び防衛大臣による、「学校長の薫陶を得て、立派な幹部自衛官となり、バランスのとれた指揮官を目指せ」との、防大の先輩として力強い激励の訓示に引き続き、生憎の曇り空ではありましたが陸・海・空の主要航空機が祝賀飛行により花を添える下で、防衛大臣を観閲官とした観閲行進が堂々と挙行されました。



記念式典・観閲式

HVDのメインイベントとも言える懇親会は、例年防衛学教室を借りて行われていましたが、今年は準備スタッフの尽力により学生会館大ホールの使用が可能となりました。会場前に設けられた受付では、記念式典・観閲式の見学終えた36期生及び家族が到着する度に、卒業以来の邂逅に受付の手続きも滞りがちとなり、受付を終えた者から会場のあちこちで家族を交えた会話の輪が広がっていきます。今回参加の卒業生89名には、12名の中途退職者や現在は在日大使館の駐在武官として勤務する留学生も含まれ、会場のあちらこちらで近況報告に花が咲きました。



受付風景

懇親会は、定刻の1230に幕を開けました。まず、司会によるHVDの意義の紹介に続き、卒業後道半ばにして他界した5名の同期生の冥福を祈り、1分間の黙祷が行われました。

足達・期生会長の開会の挨拶に引き続き、36期生会から在校生への記念品である「シルバコンパス16個」の目録が、足達・期生会長から在校生代表の我妻・57期期生会長に手渡されました。シルバコンパスは、在校生の野外訓練用にと選ばれたもので、学生が将来の道に迷わないようにとの意味も込めたとのことでした。



期生会長挨拶

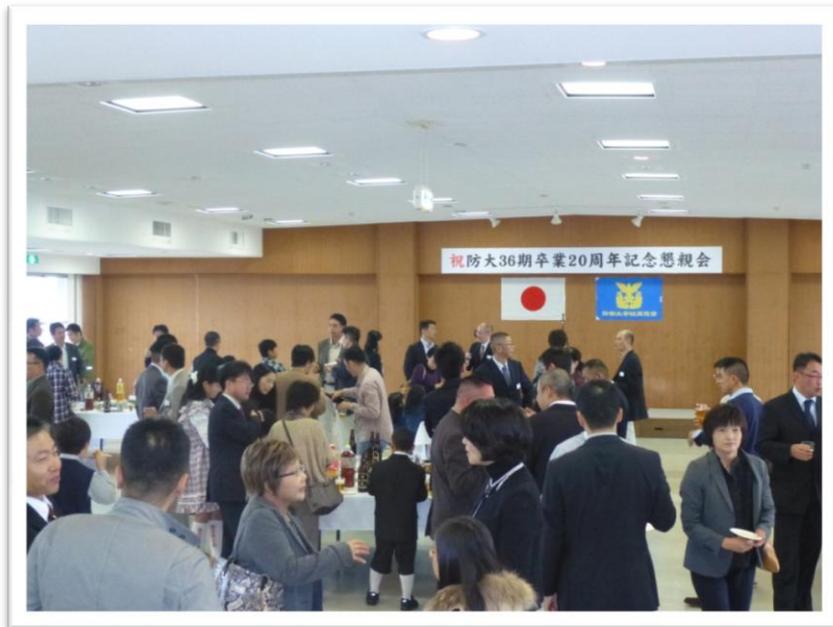


記念品目録贈呈



記念品の『シルバコンパス』

そして、海上要員代表の音頭による乾杯を皮切りに歓談タイムとなりました。アルコールが入るにつれ益々盛り上がる会話、家族用にと準備したカレーを頬張る子供達、和やかなうちに時間はアツと言う間に過ぎて行きました。



懇親会飲談風景

閉会間際には、齋藤・同窓会会長も駆けつけ壇上に立ち、36期生記載防大同窓会50周年記念行事の一環として建立し防大60周年を記念して披露された、榎・初代校長の胸像を中心とした「建学の碑」を引用しつつ、「卒業後20年という言わば自衛官生活の折り返しにあたる時に、学生綱領の精神を思い出し、初心に帰ってもらいたい」「家族を大切にせよ」とHVD参加者を激励しました。



「建学の碑」



会長挨拶

その後、参加者総員で記念撮影を行った後、皆で肩を組み輪になって、20年前に還って逍遙歌を声高らかに歌い上げました。



逍遙歌斉唱



総員写真

そして最後に、航空要員代表の音頭による一本締めで会を締めくくり、1時間半の36期HVD懇親会は終わりました。

閉会后参加者は、互いに再会を約しつつ一人また一組と、会場を後にしていきました。

(同窓会本部事業部HVD担当記)